

『近畿中部防衛局の広報活動』

(2023年7月放送)

- MC : ○ この放送をお聞きの皆さんこんにちは。『防衛問答近中でごさる』、この番組は防衛省近畿中部防衛局の協力によりお届けします。今回は、「防衛省・近畿中部防衛局の広報活動について」、近畿中部防衛局の『A』報道官からお話をお伺いします。『A』報道官は、4月以来2度目のご出演になります。今回もよろしくお祈いします。
- A : ○ この放送をお聞きの皆さん、こんにちは。近畿中部防衛局報道官の『A』です。よろしくお祈いします。前回4月の出演では、自己紹介だけで終わってしまいましたが、今回は「防衛省・近畿中部防衛局の広報活動について」、広報を担当する報道官の立場からお話をさせて頂ければと思います。
- そもそも、私の役職である「報道官」と聞かれて、皆さんはどのような印象をお持ちでしょうか。
- MC : ○ そうですね。防衛省の政策や活動などを国民の皆さんに伝えるスポークスマン、言わば防衛省と私たちをつなぐ頼れる窓口のような存在ですかね。
- A : ○ そうですね。報道官といえば、よくニュースなどで、報道関係の記者を相手に会見をしているイメージがあるかと思います。
- 規則上では、報道官の業務は、「近畿中部防衛局の所掌事務の遂行に必要な広報並びに情報の収集整理及び伝達に関する事務を総括する。」となっています。
- MC : ○ これまた、舌を噛みそうな難しいお役所的な硬い言い回しですね。
- A : ○ そうですね。規則ですのでどうしても難しい言い回しになり、堅苦しく感じられると思います。
- 具体的には、報道官は、行政相談の窓口として、近畿中部防衛局の業務に対するご要望、ご意見、お問い合わせ等を承っています。また、広報誌を編集・発行したり、ホームページを更新するなどの近畿中部防衛局の業務全般に関する広報活動を行っています。
- 端的に言えば、防衛省・近畿中部防衛局の取組みや活動内容などの情報を発信して、地域の皆さんにご理解を頂くこととなります。その情報を直接発信し、伝えるのはもちろんですが、新聞、雑誌やテレビ、FM放送といった報道媒体に取りあげて貰うことも広報になります。
- 新聞やテレビといった媒体を通じ、報道して貰うには、新聞社やテレビ局に対して取材対応をすることになるのですが、その窓口になること。そして、取材等を受けた結果がそれぞれどの媒体からどのような形で発信されたかを整理することになるわけです。
- MC : ○ 何かお話を聞いていると、報道機関への対応ばかりではなく、近畿中部防衛局の業務全般に関わる幅広い広報担当のお仕事をされているというイメージが強い感じがします。

- A : ○ そうですね。4月に着任してから、報道機関から電話での取材対応を数回受けましたが、もっぱら広報誌の作成や、Webサイトでのお知らせの更新などが多かったことから、自分でもそのように思います。
- MC : ○ それでも、実際に報道機関からの取材を受けられたことがあるのですね。
- A : ○ はい。新聞社などの報道機関から電話などで取材を受ければ、取材内容を確認して、担当課などに照会・確認した上で、私から直接回答することになります。
- MC : ○ 報道機関と担当課の間に入って調整し、それを自らお伝えするなんてなかなか大変なお仕事ですね。さぞやご苦労されることも多いと思います。
- A : ○ そうですね。私から報道機関に伝えることは、組織を代表しての回答となるため、正確にしっかり伝える必要がありますので非常に緊張しますが、この点にはよく心がけていかなければならないと思っています。
- MC : ○ さて、近畿中部防衛局では、実際にどのような情報発信をされているのでしょうか。
- A : ○ はい。当局では、情報発信のツールとして、広報誌の作成・配付のほかに、Webサイトにホームページを開設しています。また、7月からは情報発信専用ではありますが、新たに「Twitter」を開設しました。
- 「Twitter」については、ホームページに掲載する情報を中心に、当局に関する業務、行事等をタイムリーに投稿して情報発信ができればと思っていますので、是非、皆さんにフォローして頂ければ幸いです。
 - そして、今こうやって、この番組で私の仕事を紹介させて頂いていることも、リスナーの皆さんに近畿中部防衛局について、ご理解を深めて頂く上で重要な情報発信のツールだと考えています。
- MC : ○ 「Twitter」や「SNS」は時代のトレンドとして、広く一般に普及しており、いまや若い人たちを中心に生活に欠かせない身近で便利なツールになっていますね。
- A : ○ そうですね。特定の年代に偏ることなく、幅広く、様々な年代の方々に対して、情報を発信していくことが求められていますので、今後もいろいろなツールを活用して発信できるよう努めていきたいと考えています。
- それでは、まず、最初に近畿中部防衛局が発行している広報誌からお話させて頂きます。当局では、「近畿中部」と「経ヶ岬通信所だより」という2種類の広報誌を作成し、一般に配付しています。
 - 広報誌「近畿中部」は、近畿中部防衛局の管内における防衛省・自衛隊の活動を紹介しており、3カ月に一度の四半期毎の年4回発行しています。
 - 広報誌「近畿中部」は、当局管内の近畿2府4県及び北陸3県に所在する自治体や公立図書館などに無料で配付して住民の皆さんに手に取って読んで貰えるようにしています。
 - このFMマザーシップのある湯浅町をはじめ、聴取エリアの和歌山市、御坊市、海南市、有田川町等にも送付しています。

- ちなみに最新号である2023年夏号を発送したところですので、役場などで皆さんのお目に留まる頃だと思えます。是非、お目にされたときは、手に取ってご覧ください。
- もちろん、マザーシップにも毎号欠かさず送らせて貰っています。
- MC : ○ はい。写真を多く使うなど、とっても読みやすく工夫されており、毎号楽しみに読ませて貰っています。マザーシップにも展示しており、お越しになられる方にもご覧頂けるようにしています。
- A : ○ ありがとうございます。当局の職員たちで構成・レイアウトを考え、記事を書いているため、どうしても専門誌などの冊子に比べると見劣りするかも知れませんが、写真を多く掲載するなどして、分かり易く工夫しているつもりですのでご了承頂ければと思います。
- 最新号では、これまで番組内で紹介して頂いた、令和5年2月に京都府京丹後市で開催した「日米交流音楽会」や、3月にYouTubeで配信した「防衛問題セミナー」をご紹介しています。
- また、前回のこの番組で放送しました当局企画部のご紹介の中で、企画部の実施している「調和を図るための業務」について、「防衛施設の設置・運用に起因して、生活又は事業活動の障害が生じた場合に、民生安定施設の整備の助成を行っている」とお話をさせて頂きました。
- その一つの実例として、まちづくり支援事業で京都府精華町に助成した、「精華町防災食育センター」の工事が完了し、その竣工式が行われたことを最新号で紹介しています。
- その他にも、川崎重工業株式会社神戸工場で行われた潜水艦「はくげい」の引渡・自衛艦授与式や令和4年度潜水艦起工式などを紹介しています。
- MC : ○ 本当にコンパクトな中にも、たくさんの情報が紹介されていると思います。
- A : ○ ありがとうございます。次に、「経ヶ岬通信所だより」をご紹介します。京都府北部日本海に面する京丹後市に近畿中部防衛局管内で唯一の米軍施設である米陸軍経ヶ岬通信所があります。
- この施設は、平成26（2014）年12月に本格運用を開始した比較的新しい施設ですので、「経ヶ岬通信所だより」で米陸軍経ヶ岬通信所における地域交流の状況や、当局の安全・安心に対する各種の取組みなどをわかりやすく伝えることにより、地域の皆様のご理解の一助となるよう心掛けて作成しています。
- 「経ヶ岬通信所だより」は、半年に一度、年2回発行しています。
- MC : ○ 広報誌「近畿中部」が管轄されている地域全体に対して発信されているのに対して、「経ヶ岬通信所だより」については、地域に特化した広報誌ということになりますね。
- A : ○ そうですね。地域の皆様のご理解を得られるよう、地域の皆様の安全・安心につながる各種施策を積極的に発信していくことが大事だと考えています。

○ また、地域以外にお住まいの方々にも当局の取組みをご理解して頂くことも大事だと考えていますので、広報誌「近畿中部」と同様に管内の各自治体や公立図書館に配付しています。こちらも機会があれば、是非ご覧頂きたいと思えます。ちなみに、最新号は8月下旬に発行を予定しています。

MC : ○ 「経ヶ岬通信所だより」も毎号届けて下さるのを楽しみにしています。

A : ○ はい。また、でき次第お持ちします。更に、広報誌関連で言えば、防衛省が編集協力している、日本唯一の防衛省オフィシャルマガジンである「マモル」という月刊誌があります。

MC : ○ 私も読ませて貰ってます。

A : ○ ありがとうございます。こちらは、防衛省・自衛隊についてより分かりやすくご理解頂くため、雑誌や書籍・ムックを発行している「扶桑社」が編集していますので、読者目線での表現の仕方、写真、レイアウトに至るまで、非常に読み易く作られています。当局の広報誌も少しでも見習いたいとは思っています。

○ 「マモル」については、防衛省・自衛隊の多様な任務について、毎号特集して貰っていますので、私も知らないことも多く、なかなか読み応えがあると思えます。

○ 当局も、各地方防衛局の持ち回りにはなりますが、年に1、2回は記事が掲載されますし、過去には、特集で「地方防衛局」が紹介されたことがあります。

○ こちらは、一般の書店で販売していますので、より目につき易いかも知れませんが。こちらも機会があればご覧頂ければと思います。

MC : ○ お住いの場所の近くに書店がないという方も、通販サイトなどでも取り寄せることができるみたいです。

A : ○ それでは、ここからは、国民の皆様に日々活動が続ける防衛省・自衛隊をよりよく知って頂くためのWebサイトである防衛省ホームページについてご紹介します。

○ パソコンをお持ちの方は実際にパソコンで防衛省ホームページを検索してみてください。もちろんお手持ちのスマートフォンからでも大丈夫です。実際にホームページをご覧頂きながらの方が分かり易くお聞き頂けると思えます。

MC : ○ そうですね。せっかくなら実際にホームページを見ながらお聞き頂く方が分かり易いですね。それでは、パソコン、スマートフォンをご準備頂く間に一曲お聞き願います。

○ 早く鬱陶しい梅雨が明け、まぶしいばかりの夏が待ち遠しいという方も多いと思えます。夏の歌ランキングでは常に上位にランクインされる曲でもある、ゆずの「夏色」をお聞き下さい。

～演奏「夏色」～

MC : ○ ゆずの「夏色」をお聞き頂きました。その間に、皆さん、パソコン、スマー

トフォンの準備はできましたでしょうか。それでは、『A』 報道官、引き続き、よろしく申し上げます。

- A : ○ はい。それでは、まず、お手持ちのパソコン又はスマートフォンで「防衛省」と検索し、防衛省のホームページを開いてみて下さい。（一拍間を空ける）
- よろしいですか。防衛省のホームページにアクセスすると、「最近の国際軍事情勢」や「防衛政策」、「防衛省の取組」などのタグが表示されます。
- このタグから「最近の国際軍事情勢」をクリックしてみてください。わが国周辺には、強大な軍事力を有する国家などが集中し、軍事力の更なる強化や軍事活動の活発化の傾向が顕著となっていますが、わが国を取り巻く安全保障環境について説明しています。
- MC : ○ ウクライナ情勢も気になるところですが、より身近なわが国周辺の国々の動きもとっても気になります。
- A : ○ そうですね。情報は皆さんが知りたい、国・地域・トピックで検索することができます。
- 例えば、「ロシア」をクリックしてみてください。わが国周辺におけるロシア軍の動向を記述しています。北方領土を含む太平洋、北極海方面の軍備強化、中国との共同活動など軍事活動が活発化する傾向にあり、北方領土におけるロシア軍の配備やロシアから見た北方領土の軍事的意義などについて、図表や写真を多用しながら分かり易く説明しています。
- MC : ○ 北方領土は、わが国固有の領土であり、ロシアによる不法占拠が続いた状態となっており、一日も早い返還が望まれるところですが、返還どころか軍備強化や軍事活動が活発化されていることに目をつむる訳にはいきませんね。私たち国民も現状をよく知る必要があると思います。
- A : ○ 防衛省のホームページが、そのようなご理解の一助となれば幸いです。次に「朝鮮半島」をクリックしてみてください。最近もJアラートで北朝鮮からの弾道ミサイル発射の情報が緊急速報されましたが、北朝鮮による弾道ミサイル発射事案や北朝鮮による核・弾道ミサイルの開発について説明しています。
- MC : ○ 戦時中の空襲警報を知る年代の方々も年々少なくなりつつありますが、テレビを見ていて突然画面で弾道ミサイルの発射が緊急速報されるとどうしても緊張して固まってしまうですね。
- A : ○ その他にもわが国周辺地域の東シナ海、太平洋、日本海における中国軍の活動や台湾をめぐる問題などを分かり易く説明しています。更には、ロシア軍によるウクライナ侵略の状況などの説明もあります。
- MC : ○ どれもこれもよく知っておかなければいけない大事な情報だと思います。放送をお聞きの皆さんも、是非、ご覧になって下さい。
- A : ○ ここからは、放送をお聞きの皆さんの役に立つ身近な情報になります。「報道・白書・広報イベント」のタグをクリックして下さい。防衛省・自衛隊が発信する日々の情報を掲載しています。

○ 防衛省・自衛隊ができる限り多くの皆様に、できる限り平易な形でわが国の防衛の現状とその課題及び取組を周知することを目的として、毎年刊行している防衛白書もご覧頂くことができます。

MC : ○ 防衛白書は一般書店でも市販されているとお聞きしましたが、ホームページでも読めるんですね。

A : ○ はい。防衛白書に馴染みのない方にも、広く防衛省・自衛隊の活動をご理解頂くため、防衛白書の内容を小学校高学年以上の皆さんにも分かり易く作成した、「はじめての防衛白書」も掲載しています。

MC : ○ 私も見せて貰いましたが、陸・海・空自衛官のキャラクターのコラム形式でのQ & Aや解説、働く自衛官や防衛大学の学生への中高生記者インタビューなどとっても分かり易く工夫されていると思います。

A : ○ その他にも陸上自衛隊の駐屯地や海上自衛隊、航空自衛隊の基地などでは、創立記念日行事や基地祭などを行っており、装備品の展示や体験搭乗、音楽演奏のほか、市中でのパレードを行うなど、自衛隊を堪能できる様々な催しを行っています。

○ 各地でのイベント一覧はホームページに掲載していますので、放送をお聞きの皆さんも、お近くでイベントが開催される場合や興味のあるイベントがありましたら、是非、イベントに参加して楽しい一日を過ごされてみては如何でしょうか。

MC : ○ とっても楽しそうで興味がありますね。私も機会があれば是非参加してみたいと思います。

A : ○ その他にも、以前にもこの番組の中でご紹介した防衛省市ヶ谷台ツアーや陸・海・空自衛隊の広報施設もご案内しています。

○ 市ヶ谷台ツアーでは、東京都新宿区市ヶ谷地区に所在する防衛省の庁舎や、極東国際軍事裁判（東京裁判）の法廷となった大講堂などを移設・復元した市ヶ谷台記念館をご案内しています。

○ また、午後のコースでは、大本營地下壕跡もご案内しています。どなたでも、事前予約により祝日及び年末年始休暇期間を除く、月曜日から金曜日までの午前・午後各1回見学することができます。ご覧になりたい方はホームページから予約できますので、是非、お申込み下さい。

○ なお、午後のコースについては、有料700円となっていますので注意してください。

MC : ○ 放送をお聞きの皆さんも、上京される際にはご予約に組み込まれてはいかがでしょうか。

A : ○ その他にも、陸・海・空自衛隊の広報施設を一般に公開しています。広島県呉市にある海上自衛隊呉史料館「てつのくじら館」では、潜水艦の発展と現況などに関する歴史的な展示資料を通して、海上自衛隊の歴史や、呉市と海上自衛隊の歴史的な関りについてご紹介しています。

○ 「てつのくじら館」の名前が示すとおり、平成16年に除籍した実物の潜水

艦「あきしお」を屋外に展示しており、潜水艦に乗艦し、艦内で潜航中の環境や生活を疑似体験できるほか、現役隊員やOBと触れ合いながら見学することができる貴重な史料館となっています。

MC : ○ 実物の潜水艦に乗艦できることなんてなかなかできませんね。とっても貴重な体験になると思います。

A : ○ そうですね。「てつのくじら館」に隣接し、呉市海事歴史史料館があります。史料館の名称の「海事」は海上自衛隊のことではなく、「海」に「事」と書き、海及び海上で主に人間の活動に伴い発生する事象を指します。でも、やはり正式名称よりも「大和ミュージアム」の方が一般的にはよく知られていると思います。

MC : ○ どちらの施設も正式名称が似ているので、それぞれ「てつのくじら館」、「大和ミュージアム」と呼ぶ方が分かり易いですね。

A : ○ 私もそう思います。「大和ミュージアム」には、昭和16年に呉海軍工廠で建造された戦艦大和の10分の1模型や近代化産業遺産登録された零式艦上戦闘機、ゼロ戦の実機が展示されています。

○ 戦前は戦艦大和を建造した軍港、日本一の海軍工廠のまちとして栄え、戦後は世界最大のタンカーを数多く建造する、明治以降の「呉の歴史」と造船・製鋼を始めとした各種の「科学技術」を紹介する博物館となっています。是非、海上自衛隊の「てつのくじら館」と合わせて見学頂ければと思います。

MC : ○ 私も広島に行く機会があれば、是非、呉にも立ち寄って両方の施設を見てみたいと思います。

A : ○ ちなみにJRの快速を利用すれば、広島から呉までは35分ぐらいで行けるんですよ。

MC : ○ そうなんですか。この湯浅から和歌山に行くよりも早いですね。

A : ○ せっかくなんで呉のグルメ情報を紹介します。海上自衛隊では多くの部隊で金曜日の昼食にカレーが食べられています。

MC : ○ 諸説あるとは思いますが、長く航海している隊員が曜日感覚を忘れないようにするためだとか聞いたことがあります。

A : ○ そうですね。呉市では、「海上自衛隊のまち呉」として、海上自衛隊呉基地所属の艦艇内で隊員が食べているカレーを市内の飲食店で食べることができます。

○ 各店舗は海上自衛隊より直接作り方の伝授を受け、実際に海上自衛隊の艦艇で提供されているカレーをレシピ通り作っており、提供するカレーは、海上自衛隊艦艇の認定を受けています。各店舗には認定書が掲示されているそうです。

○ 「呉海自カレー」の特徴は1店舗で1艦艇のカレーを提供することになっており、現在、21店舗で提供されており、食べ比べのシールラリーなども行われています。呉に行かれた際は、是非、こちらも味わってみられては如何でしょうか。

- MC : ○ 一度に21食もとても食べきれませんね。
- A : ○ お土産用にレトルトカレーもあるみたいですよ。宣伝になってしまいますが。
- MC : ○ 海自カレーと言えば、横須賀や舞鶴も有名ですよ。
- A : ○ そうなんですよ。せっかくなので、近畿中部防衛局管轄区域内の自治体である、舞鶴市の取組みについてご紹介させて下さい。
- MC : ○ お願いします。
- A : ○ 舞鶴市でも、平成23(2011)年から始まった「金曜日はカレーの日」プロジェクトの取組みの一環として、カレーによる地域の活性化を目的に、海上自衛隊舞鶴地方総監部の協力により、平成29(2017)年8月から海上自衛隊の艦艇・部隊のオリジナルカレーのレシピを使い、市内12の店舗で店舗ごとに違うカレーが提供されています。
- こちら舞鶴市でも、スタンプラリーが実施されています。スタンプの数に応じて、景品が貰えるそうなので、チャレンジして頂ければと思います。
- MC : ○ こちらもたくさんのお店が参加しているんですね。
- A : ○ 私自身も舞鶴地方総監部に勤務した経験があり、お世話になった舞鶴市のPRについつい力が入ってしまいますが、皆さんがお馴染みの家庭の味の一つ、肉じゃがも舞鶴発祥の料理と言われています。
- 肉じゃが誕生には、海軍舞鶴鎮守府の初代司令長官に任命された東郷平八郎が大きく関わっているとされています。
- MC : ○ 東郷平八郎と言えば、日露戦争で連合艦隊司令長官として、世界最強と言われていたロシアのバルチック艦隊を破った人物として有名ですよ。
- A : ○ 海上自衛隊舞鶴地方総監部には、東郷平八郎が初代舞鶴鎮守府長官時代に過ごされた官邸が「会議所」として、当時のままに保守管理されており、1月を除く毎月第1日曜日に一般公開しています。
- また、海軍記念館も毎週土曜、日曜及び祝日に一般公開しています。見学を希望される方は、海上自衛隊舞鶴地方隊のホームページの見学のご案内をご覧ください。
- MC : ○ 舞鶴も呉も、どちらも歴史の勉強や海上自衛隊ゆかりのグルメを味わうことができますね。舞鶴には、世界にも類のないれんが専門のミュージアム・赤れんがパークや護衛艦や造船所などを海から巡る湾内巡りの遊覧船もあります。
- A : ○ 参考までに、MCがおっしゃった赤レンガパークや、先ほどの東郷平八郎の官邸である舞鶴地方総監部会議所は、今年3月に「SNOW MAN」の目黒蓮さんと今田美桜さんが主演された映画「私の幸せな結婚」のロケ地として撮影に使用されました。
- これまでもそれぞれ色々な映画等のロケ地として撮影されてきましたので、映画のワンシーンに浸ってみるのもいいかも知れません。
- MC : ○ 映画のロケ地ですか。ロケ地巡りといった楽しみ方もありますね。他にどんな映画のロケ地になったかご存じですか。

- A : ○ そうですね。映画ですと役所広司さん主演の「日本のいちばん長い日」、岡田准一さん主演の「海賊とよばれた男」、テレビドラマではNHKの「坂の上の雲」などが有名です。
- 珍しいところでは、真田広之さんが主演された映画「亡国のイージス」では、舞鶴に在籍している護衛艦「みょうこう」が劇中で架空の護衛艦として使用されています。
- MC : ○ なかなか面白いお話が聞けました。放送をお聞きの皆さんも、夏休みの家族旅行に計画されてみてはいかがでしょうか。きっとよい思い出になると思いますよ。
- A : ○ 話が脱線してしまったようで大変申し訳ありませんが、舞鶴、是非よろしくお願ひします。話を戻して、その他にも防衛省のホームページには、採用情報のタグをクリックして頂くと、防衛省職員の採用情報や自衛官の募集情報を掲載しています。
- また、「防衛省・自衛隊のよくある質問」をクリックして頂くと、防衛省・自衛隊の政策や活動など、よくある質問や素朴な疑問にお答えしています。
- 更に、「用語集」では、防衛省・自衛隊に関する用語を、「50音」または、「キーワード」によって簡単に検索することができます。
- その他にも、「自衛隊検定」や「壁紙」、「ペーパークラフト」のダウンロードなど、皆さんに、防衛省・自衛隊の活動を知って頂くための情報が盛りだくさんとなっています。
- MC : ○ 本当に盛りだくさんな内容です。テレビや新聞の報道で、国際情勢や防衛省・自衛隊の活動などに興味を持たれて、さらに深く知りたいときは、まずは、防衛省のホームページから検索してみてください。
- A : ○ よろしくお願ひします。最後になりますが、防衛省のホームページは、統合幕僚監部、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊や私たち地方防衛局などのホームページにもリンクしています。
- また、防衛省・自衛隊が運用する「Twitter」や「SNS」のアカウント、メールマガジン一覧も掲載しています。是非、防衛省・自衛隊の活動をよりよく知って頂く上でご活用下されば幸いです。
- MC : ○ 『A』 報道官、ありがとうございました。本日は、「防衛省近畿中部防衛局の広報活動について」、とっても分かり易くご説明頂きました。
- それでは、番組のエンディングに『A』 報道官から一曲リクエストをお願いします。
- A : ○ それでは、ケツメイシの「涙」をお願いします。
- MC : ○ はい、ケツメイシの「涙」ですね。『A』 報道官ご自身、この曲に何か思い入れでもあるのでしょうか。
- A : ○ もう十何年も前になりますが、当時、防衛本省に勤務していて、毎晩仕事のため帰宅が深夜を廻り、結構クタクタになっていた時にテレビでたまたまこの曲のミュージックビデオが流れていました。その時に、この曲の歌詞が非常に

心を揺れ動かすものがあって、聞き入ってしまい、すぐにファンになってしまいました。

○ ケツメイシは、他にもいい歌詞の曲がたくさんあるのですが、1曲となればこの曲をお願いします。今でも、この曲を聴くと当時を思い起こして少しジーンとすることがあります。

MC : ○ それでは、『A』報道官の思い出の曲、ケツメイシの「涙」です。番組をお聞きの皆さんとは、この曲を聴きながらお別れです。今回も最後までお付き合い下さりありがとうございました。次回の放送もお楽しみに。さようなら。

～演奏～

(完)